

第3回 山科の未来を語る懇談会

日時 平成31年1月23日（水）18:00～19:40

場所 山科区役所 2階大会議室

委員

山科区自治連合会連絡協議会会長会副代表 内海 敏 委員
京都大学大学院工学研究科教授 川崎 雅史 委員
一般社団法人山科経済同友会会長 川中 長治 委員
山科区自治連合会連絡協議会会長会代表 住友 正歳 委員
京都薬科大学学生課長 高野 江里 委員
市民公募委員 高畑 咲季 委員
京都教育大学教職キャリア高度化センター教授 初田 幸隆 委員
京都橘大学健康科学部教授 日比野 英子 委員

配布資料

資料1	山科の未来を語る懇談会 委員名簿
資料2	第2回 山科の未来を語る懇談会における主な意見
資料3	山科区内の全13学区自治連合会会長への説明会における主な意見
資料4	「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略（素案）」に関する市民意見募集結果
資料5	市民意見募集の結果を踏まえた「戦略」（素案）の修正について
資料6	「京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」（案）
資料7	今後のスケジュールについて
参考資料	第2回山科の未来を語る懇談会 会議録

1. 開会

事務局：

ただ今から第3回山科の未来を語る懇談会を開催させていただきます。大変お忙しい中、御出席を頂きまして誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、京都市総合企画局プロジェクト推進室長の松浦と申します。よろしくお願いいたします。

この懇談会につきましては、公開で開催させて頂くこととしており、報道関係者及び市民の皆様の傍聴席を設けておりますので、御了承のほどお願いします。

本日は、お手元の資料の次第に記載しておりますとおり、昨年11月から12月にかけて実施いたしました戦略素案に対する市民意見募集の結果を御説明し、これを踏まえて事務局で作成いたしました戦略案につきまして、委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えております。

それでは、懇談会の開催にあたりまして、総合企画局プロジェクト・情報化担当局長の山本亘から一言、御挨拶を申し上げます。

2. 総合企画局プロジェクト・情報化担当局長あいさつ

山本局長：

本日、第3回の山科の未来を語る懇談会ということで、川崎会長はじめ委員の皆様には御参集頂きまして誠にありがとうございます。昨年の8月に、子や孫の世代になっても山科が活力に満ちて魅力的なまちであり続けるように、京都刑務所敷地の活用を核といたしまして、これからの山科のまちづくりの大きな方向性を考えていきたいという思いで、懇談会を立ち上げさせて頂き半年が経ちます。この間、この懇談会につきましては、例えば山科が豊かな自然や歴史に恵まれているところであることや、地域活動もとても活発であること、刑法犯の認知件数が非常に少ない安心安全なまちとであることなど、非常にいいところを御紹介、お示ししながらも、同時に今後、人口減少や高齢化が進行し、深刻なことになるっていくというような課題も提示させて頂きました。そのうえで、委員の皆様方から幅広い御意見を賜りました。ここに、改めて感謝申し上げたいと思います。この懇談会で頂いた御意見や、山科区の全13学区の自治連合会会長の皆様への説明会で頂戴しました御意見をもとに戦略の素案を作成いたしまして、昨年の11月から12月にかけて、いわゆるパブリックコメント、市民意見の募集を実施いたしました。その実施経過につきましては後程詳しく説明させて頂きたいと思います。実施に当たりましては、市民しんぶんの山科区版や、京都市のホームページでの周知に加え、ふれあい“やましな”区民まつりや、山科経済同友会の川中会長にもお世話になりまして、山科検定の試験会場をお借りして、市民の皆様の方から直接御意見を頂くといった取組などにより、487名という大変多くの方々から御意見を頂くことができました。これまで、私どもプロジェクト推進室で行ったパブリックコメントでは、御意見を寄せていただいた方の人数を平均すると大体200名ぐらいでしたので、今回は非常に皆様方の関心が高かったのかなと改めて実感している所でございます。また、一昨日の京都新聞の社説で刑務所移転に関する記事が掲載されました。その中で刑務所の敷地の活用に向けては、先の問題など困難な課題はありますが、地元はもとより民間も含めた、京都市全体の判断につなげていくには、十分な情報提供であるとか、冷静で丁寧な議論が必要である、そういった論調でした。私どもの思うところは、一緒でございます。この間、刑務所敷地の有効活用を目指す意義や、山科の将来の予測、それから懇談会での議論の状況などを、市民しんぶん等で積極的に発信してまいりました。引き続き、一人でも多くの市民の皆様に関心を持って頂き、将来のまちづくりにつなげられるよう、十分な情報発信をしていきたいと考えております。本日、最終回の懇談会となります。市民の皆様から寄せられました御意見も踏まえて作成しました、まちづくり戦略の案につきまして、御意見を頂戴し、戦略案を固めて参りたいと思いますので、本日も忌憚のない御意見を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

3. 会長あいさつ

川崎会長：

それでは以降の進行を務めさせて頂きます。

委員の皆様には、本日も会議進行に御協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。前回の意見が資料2にも書かれております。非常に多くの御意見を頂き、全体の戦略骨子の案がほぼ固まったという状態でございます。山科のまちづくりの総合的なものの見方というものをどうすべきか、どういう言葉で、まとめていけばいいのか。非常に大きな概念を頂きました。例えば山科区のまちづくりの方向性<目指す姿>に美しいという言葉があります。姿が美しいという意味もありますし、地域が活性化して行って、それがそれぞれのまちの中に生き生きとしているという、状態としての美しさという意味もあると思います。そのような包括的な概念を色々と修正して頂いて、今回、戦略(案)を御提示して頂いているということでございます。その最終チェックといいますか、こういう言葉でいいのか、こういう概念でいいのか、先

ほど局長からのお話にもありましたように今日は最終の会議ですので、皆さんでもう一度確認して頂くということでございます。それから、非常に多くの市民意見の応募ということもありますので、その中から、反映すべきことがありましたら、そちらも御確認を頂きたいと思います。

4. 議題

(資料2・資料3・資料4・資料5の説明の後、意見交換)

- (1) 「京都刑務所の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」(素案)の市民意見募集結果について
- (2) 「京都刑務所の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略」(案)について

川崎会長：

ただいま事務局から資料の説明を頂いて、第2回の懇談会での主な御意見や、山科区の全13学区の自治連合会の会長の皆様からの主な御意見を御紹介頂きました。そして、市民意見の募集結果の主な御意見、市民意見の募集結果を踏まえた戦略(案)を御説明頂きました。戦略(案)のP13とP19に加筆をして頂いた部分がございます。

それでは、どこからでも結構ですので、市民意見の募集結果を踏まえた戦略(案)につきまして、皆様方から広い視点から御意見ををお願いします。

P19で、ベンチャー企業などを支援するインキュベーション施設をあえて明確に加えられました。これは、京都全体で、持続可能な都市の検討をしている方針案の中でも、1つのポイントだと思っております。特に京都の場合は、中心部の商業や景観、観光という部分と比較して、例えば、ものづくりに携わる人材や場所が少なく、そのうえ、人が転出していくという問題があります。すなわち、産業やものづくりの空間と人材が大変不足しています。そういう中で、ものづくり産業を南部地域であったり、部分的にでもまとまった大きな敷地ができたところに、京都市の持続可能を支える場所をしっかりと求めていく必要があると思います。そういう意味では、山科には地元の大学がありますのでその知と人材を中心としながら、連携を図れば良いと思います。そのような理解として、加えられたのではないかと思います。

日比野委員：

重複するかもしれませんが、私も第2回懇談会の後に、やはり研究施設にインキュベーション機能を持たせることを強調したいなと思っておりました。京都にはリサーチパークがありまして、ここにはベンチャー企業が250社入っているそうでございます。特に山科の新しい研究施設には、ベンチャー企業の方々が入居される施設としての支援もそうですけど、新しい新規事業とか、起業を促進していくようなインキュベーション機能をもった研究そのものをぜひお願いしたいなと思います。そうすると理工系の方の研究開発はもちろんのこと、経済・経営系も含めた文理融合型の研究開発もするような施設として頂きたいなと考えておりました。まさしく私が願っていたことが書かれていて大変嬉しい思いをいたしました。

それと、持続可能という単語が出てきましたが、先日、日経新聞で拝見いたしましたが、京都市が全国で、持続可能な都市の第1位に選ばれたということで、大変喜ばしく、市役所の方々の豊かなアイデアと弛まぬ努力のおかげかなと思い、非常にありがたいなと思いました。その中で、パークアンドライドという言葉が出ておりましたけれども、この広い敷地、まだ地下の案は出ておりませんので、素人考えかもしれませんが、ぜひ地下に大きな駐車場をつくって頂いてはどうかと思いました。山科は2つの大きな高速道路の出入口がございますので、他府県あるいは京都府下から来られる方は、まず山科で降りて柵辻に来て頂いて、柵辻に車を停めて頂けたら山科の観光につながくこともできますし、京都市内の観光も公共交通である地下鉄を使って、市街地に入って頂くこともできる。そのようなパークアンドライドの拠点として、

まず、車を停める拠点としてこの地下を活用できないかなと考えました。

美しいまちというお考えに大変賛同しております。前回、内海委員から、山科駅周辺と柳辻周辺をつなぐメインストリートという素敵な案が出ました。ぜひ山科駅から柳辻駅まで、並木道をつくって頂きたい。京都には白川通や北山通などがございます。並木の美しいまち並みをつくって頂いて、柳辻の刑務所敷地の新しい施設の周りにも、住民の方々が散策できるような道や、緑の美しい散歩道をつくって頂けると、メインストリートと緑の美しい散歩道で、ちょうど回遊型の、若い御家族や若い人々がぶらぶら歩かれるような美しく楽しいオシャレなまち並みに育っていくのではないかなと思いました。

ほとんど、前回の皆様方の御意見から考えたことですし、それから市民の方々からの御意見とも重複する部分も多いのですが、前回から私が考えたことは、修正された２点に賛同したうえで、これを更に進化させたものでございます。以上でございます。

川崎会長：

３点、御意見頂きました。１点目につきましては、文理融合であったり、ナノテクであったり、色々なテーマが産業に対して設けられると思います。例えば、ドイツのドルトムントで取り組まれているフェニックス計画では、主にナノテクに絞ったインキュベーション施設を入れています。文理が融合すること、産業を通して文化を生み出す機会が出てきます。工学や科学だけでは味気ないまちになってしまいます。

２点目・３点目につきましては、御池通で、シンボルロード整備事業が実施され、大きな駐車場もできたように、１つの路線の整備の中で考えていくこともあると思います。地下が利用できなくても骨格としての道路が美しくあるべきだという御意見も皆さん共通して頂いています。最終的には、エレガントでオシャレなまちができると良いですね。

住友委員：

刑務所敷地のことを考えますと、現在、地元の大宅学区は、屋内型の避難所があるということで、便利だから残してほしいという要望があると思っています。それに関連しますが、山科区では、私立の中学校に行きたいとなれば、子どもが市内中心部に流れたり、大津市の方に流れたりしています。対策としては、山科区内に小中一貫校をつくれば間違いないかもしれませんが、それができないのであれば、私学の中学校、高校、それに連動する大学も必要ですが、大学はここに呼ばなくても中学校、高校の施設を刑務所の敷地につくってみて、その建物が避難所に活用できるのであれば、地域の方に迷惑が掛からないのではないかと思います。それについては、道路拡幅もしなくてもよいし、緑地も残せて、避難所もできるということも踏まえて、一学校だけではないですけども、それに関係する施設もつくっていけばいいと思います。学校を呼び込もうとする場合、中学生、高校生を呼び込めても、一般の方を呼び込む材料もつくらなくてはいけないので、そのような検討も必要なのではないかと思います。

地元の小学校で、今年度、２５人の在校生（６年生）の中で、２０人近くが私学を受験したという現状があります。子どもの流出は大変大きな問題であるので、その点も加味していく必要があると思います。

川中委員：

意見募集の結果を見まして、エリア設定に関して、Ｐ１３のＮｏ．１１７の「山科の東北部周辺をエリアとして追加してほしい」という意見について、事前にその地域の方からもお話を聞いております。

エリアに関して、東の玄関口は、電車の場合ですと山科駅を指しています。自動車の場合は、京都東インターチェンジを玄関口として見っていますが、名神高速道路を降りた京都東インターチェンジ周辺に農地や国道事務所など、色々なものがありますが、開発の余地があるのではないかと思います。その周辺に、

パークアンドライドとか、京都の中心部に向かう観光バスを出すとか、色々な手法があると思います。今後、市民意見として考えて欲しいと思います。

次に、もう1点は、京都橘大学の南西部です。名神高速道路より南側で、奈良街道より東側の、調整地域にも、竹藪やら色々あります。一部、伏見区に属しています。そういう部分の用途の変更に関して、現在も企業のグランド用地あるいは、学校用地として業者が色々活用を考えております。やはり、京都市や懇談会においても、学校用地として考えて頂けるなら、そういうところまで手を伸ばして欲しいと思います。

さらに、もう1点、刑務所エリアの西側に東野公園があります。総合的な避難所の用途もありますし、イベントでも食の文化の行事などで利用されています。周辺の住民には認知されていますが、分かりにくいのが現状です。公園やグランドの整備も考えて頂ければ、水と緑や、健康面などの、色々な部分で用途があるのではないかと思います。

川崎会長：

ありがとうございます。具体的に市民アンケートのNo. 117を挙げて頂いて、特に京都東インターチェンジの周辺エリアを追加してみてもどうかという意見が面白いという御指摘を頂きました。事務局が設定されました、5つのエリアは、密度の高い部分を中心に、これからの山科の骨格になるようなエリアを拠点として選んで頂いたと思います。ご指摘いただいたのは、中心から少し離れたエリアかもしれませんが、これは次の段階で考えていくということになるのでしょうか。

事務局：

この間、5つのエリアで今後の方向性等を御議論頂きましたが、それ以外をどうしていくのかという部分は、ここで表現していくことはかなり難しいですが、1つ御理解頂きたいのは、今回の戦略では刑務所敷地の活用をまずは1つの核といたします。そして、今回の資料6のP13になりますけれども、総論として山科区のまちづくりの方向性をどうするのかということをお伝えさせて頂いております。エリア設定については、まちづくりの方向性を進めるうえで、ポイントとなるエリアを抽出しております。ただ今、名神高速道路の京都東インターチェンジ付近のエリアについてお話を頂きましたが、地域を具体的に限定することは難しいことかもしれませんが、例えば、持続可能なまちという観点で何か記載ができないかということも含めて、考えて参りたいと思っております。

持続可能なまちやパークアンドライドの話を頂いております。京都市でのパークアンドライドは、東側でいうと大津市が中心になっているかと思います。大津市の市営駐車場とか、その辺りを京都市のパークアンドライド施設として、観光の時期に御協力頂いております。特に、車の流入を大津市内の段階でシャットアウトするという形で行っておりますので、京都東インターチェンジ周辺がいいのかということも含めて、その辺りを色々と考えて参りたいと考えております。

川崎会長：

おそらくエリアや拠点の設定について、新たな可能性があるゾーンは、自由に広げていくことが可能だと思います。今回のエリアはコアとなる最低限必須の骨格を形成するものです。実際に住まいがあり、駅が近くにあり、中心部の骨格につながりがあり、そのつながりをしっかり形成すれば人の流動性が生まれるので、拠点ゾーンと周辺がつながればさらにエリアに広がりが生まれると思います。

川中委員：

平成12年に、エコランド音羽の杜が竣工しました。その後、そこに、焼却灰の熔融施設を整備するという話が京都市からあり、当時、山科でもそれぞれの学区で、賛否両論の中で、厳しい状況でした。最近

どのようになっているかと思ったら、数年前に機械の故障で京都市とメーカーとが訴訟を起こし大きな金額で企業が弁償することになったようです。役所の方にお聞きしたいのですが、その後、焼却灰溶融施設はどうなっているのでしょうか。

事務局：

エコランド音羽の杜は、京都市のごみの最終処分場として、現在、京都市が設置し利用している唯一の最終処分場でございます。山科区と伏見区にまたがり、地域の方からも大変な御理解を頂いたうえで立地をさせて頂きました。最終処分場につきましては、国内で申し上げますと、よく海にごみの最終埋め立てをしており、特に関西ではフェニックス計画ということで大阪湾に埋め立てておりますけれども、京都市においては、エコランド音羽の杜を使わせて頂いております。その寿命をいかに延ばすかということにつきましては、色々な検討を担当局で重ねております。焼却灰の溶融施設はごみ焼却後の灰を更に燃やして減量化するもので、大手企業が落札されましたが、技術力不足でうまくいかなかったということで解約をしています。この施設を今後どうしていくのかは、市の課題になっています。

内海委員：

お正月明けまして、私が体験した2つをご報告申し上げます。

1つ目が、1月13日10時から京都市消防局の出初式が平安神宮でありました。私は、大石道の辺りに住んでいますが、出初式に行くべく、9時17分のバスに乗ろうと思い用意していましたが、お客さんが来られて、予定していたバスに乗れませんでした。次のバスは11時17分で2時間待ちでした。10時台のバスがなく、私の所からは、東野や御陵まで徒歩で20分以上かかるため諦めました。これは、山科周辺の課題の1つだと思います。

次は1月19日、地元の包括支援センターのエリアの地域密着型の12施設のデイサービスの皆さん方と集まり、お話する機会がありました。その中の1つの施設が、去年の11月に山科区に施設を移転されてきた施設で、山科に来て最初に感じたことは、道が狭いということだったようです。また、デイサービスの車で送迎時、利用者の方を車に乗せるまで後ろの車が待ってくれず、離合も車を追い抜くこともできません。「分かっていたけどここまでひどいとは思わなかった」と言われ、山科区民として恥ずかしくなりました。

道の話でもう1つ申し上げますと、前回、メインストリートというお話をさせて頂きましたが、刑務所が1927年に移転し、その2年前に京都カントリークラブというゴルフ場ができました。外環状線の1つ東の道に通称「ゴルフ道」という粋な名前が付いております。その名前がオシャレでハイカラだと思いました。例えば、哲学の道など、名前を聞いただけで、いいイメージが湧くので、道の名前もポイントになると思います。以上でございます。

川崎会長：

ありがとうございます。交通やメインストリートの問題、それから「ゴルフ道」について、具体的な提案で、歴史の道を大切にしていこうということは、正に持続可能という意味につながると思います。

今回は、約500人もの市民や区民の方から御意見を頂いていますが、京都市では他にも京都駅周辺エリアの活性化など、多方面で意見を聞いていると伺っていますが、それと比べてもかなり多いのでしょうか。

事務局：

「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」をまとめている最中ですが、その際に頂いた市民意見は、246人でございます。私どもが所管するビジョン等の関係で申し上げますと、京都駅西部エリア

が200人弱、京都駅東南部エリアが170人前後で、今回の約500人というのは、非常に数が多いと感じております。特に、通常はメールで御意見を頂くことが多いですが、今回は対話型パブコメという、私どもの職員が区民まつりや山科検定の会場に行き、そこに来られている方にお話をして直接御意見を頂くという取組も行いました。この対話型パブコメの取組により多くの方から御意見を頂けたと考えております。

川崎会長：

否定的な御意見の中でインパクトがあったのが、資料4のP5のNo. 13でいわれている「大型民間施設主義は信用できない」という意見に対して、市の方では民間を中心に取り組んでいくとしています。民間という言葉もそうですけど、大型であるということが問題ではないかと思っています。要するに、大きなハコモノ整備だけで終わってしまうと、周辺のまち並みのスケールと合わないということを述べているのだと思います。もし、そのような側面であるとなると、敷地が10haもあるので、周りのヒューマンスケールに合わせた形で分散型配置にしたり、土地の中央に大きな建物を寄せるなどの敷地計画や、透明感のあるものにしたり、分節化したり、デザインの段階で解決できると思います。周辺の住宅に影響を及ぼさないように、住宅に近い所は、空地や緑などを配置していく工夫もできると思います。

そのようなことで対応していくと御説明をされた方が、御理解が得られるのではないかと思います。

事務局：

約1割の方から否定的な御意見を頂いております。私どもが読ませて頂いて感じたことは、民間が開発すること自体が、大資本の儲け主義であると認識されている住民の方が一定数いらっしゃいました。また、開発行為そのものよりも、福祉の充実の方が重要ではないかという意見が反対意見のなかでは目立っていたように感じております。

高野委員：

市民意見を拝見いたしましたして、こんなにもたくさんの方々が、刑務所敷地活用に対して関心を持っておられることに感心いたしました。やはり市民の皆様は活力ある山科を望んでおられると思いますので、発展と区民の方の暮らしを守る施策を考えていかなければならないと思いました。

次に、まちづくりの方向性について、全体計画としては、この計画で結構だと思っています。やはり、山科駅前、刑務所周辺、新十条通のエリアを結びつけるような形でまちづくりが進んでいけば、山科全体のエリアにも波及していくのではないかと思います。開発を行うには、市民意見にもありましたが、並行して道路や交通網の整備も不可欠ではないかと思います。

最後に刑務所敷地の計画についてですが、産業を創造する機能がメインになるのではないかと思います。これをつくることにより、雇用や山科への人の出入りも増えてきます。また、教育施設を望んでおられる方も多くございましたので、世界の産業のトップクラスの研究者の方々と、大学生が共に高度な教育を受けて、最先端の研究に携わることができれば、この2つがうまく融合していくのではないかなと思いました。また、そのような場を子どもたちが実験教室などで体験できるようなことがあれば、教育力もアップしていくのではないかなと思います。計画案は全てがうまく繋がっていけるような感じがいたしました。

川崎会長：

ありがとうございます。P19の案について基本的にこの骨子でよいというご意見を頂きました。また、P19の中に産業を創造する機能と教育ということで、この2つは相関性があるので融合すれば大きな拠点になるのではないかと思います。また、特に、「雇用」は重要な視点だと思います。

初田委員：

資料４のＰ１１のＮｏ．９４は、要するに、大人になっても学び続けるような環境が欲しいということ、いわゆる文化施設のことだと思います。Ｎｏ．９６やＮｏ．９８辺りは、教育レベル・水準ということですが、山科の教育レベルが低い、教員は寄り添う形で疲弊しているという意見がありますが、先ほど住友委員から御意見がございましたとおり、小学校の子ども２５名中２０名が区外の私立中学を受験するというので、公立の中学校が信頼されていない証だと思います。公立の中学校が信頼されていたら、そうはならないと思います。中学校をどうしていくのかということを含めて考えていく必要があります。そのためには、先ほど住友委員から御意見がございましたとおり、私学を誘致して中高一貫の学校をつくることも考えられます。ただし、外から引っ張ってくることも必要ですが、中高一貫ができて山科の子どもが通わないと困るわけですから、やはり義務教育である小中学校を考え直す必要があると思います。

下京区に京都リサーチパークがあり、京都市の教育委員会と連携しながら、キャリア教育を進めてきた経緯があり、やはり官民一体となって進めていく必要があると思います。特に刑務所敷地にインキュベーション施設をつくっていくことになれば、そこで色々な最先端の研究をするような所も当然出てくると思います。企業のＣＳＲとして、教育にどのように投資して頂くのかという視点は重要ではないかと思います。それが京都市内に満遍なくではなく、特に山科の小中学校に企業のノウハウを落とし込んで頂くことを期待しています。

民間企業を誘致していくことの意味を出していかないと、ビジョン追求だけの企業誘致になるのではないかという御心配もあるので、官民一体となったものをつくっていくという視点が必要だと思います。大学についても同様です。そういった意味から考えると、資料６のＰ１３の（２）は、５行目で、「教育環境」の４文字で表しているのもう少し言葉を足してもいいのではないかと思います。Ｐ１９の「教育・学びを高め交流を促進する機能」という文言に対しては、義務教育に対して具体的な方策を掲げていくような記述にしても良いのではないかと感じました。

川崎会長：

あまり書きすぎるとそれに縛られ、広い概念ではなくなるため難しい所ですが、少し検討して頂いて、より課題がクリアになればいいと思います。

高畑委員

先ほどの初田委員の意見が興味深いと思いました。私は、小学校と中学校は山科区の学校に通っていて、高校、大学も山科の実家から今も通っています。大学生になると、学校の課外活動の中でも、以前参加していた京都学生祭典の活動で企業の方と連携させて頂くなど、自ら考える力を養う機会をたくさん頂くことができました。しかし、小中学生は自ら動くことは難しいと思うので、そのような政策や機会を頂けるのであれば成長できるきっかけにもなり、良いと思いました。また、今回そういったことを学校の中に落とし入れなくても、刑務所敷地という１０haの広大な土地があるので、様々なものが体験できるような施設だと受動的に学ぶこともできると思います。

また、資料をたくさん拝見させて頂いてまちづくり戦略に対する市民の意見の中に、緑を残すことにも意味があるという意見や川や自然のことも考えたまちづくりをして欲しいという意見など、自然を重視した考え方が私の目に留まりました。こういったことは、意見でも頂いている、小さい子どもが安心して遊べる場所ということにもつながりますし、資料６のＰ１３の（２）にも掲げてありますが、こういったことにもつながると思ひまして、新しい最先端のものを入れることも大事かとは思いますが、自然を大事にしたまちづくりも総合的に考えられたら、この先も続く施設として活用していくためにも常にアップデートできる機会になると思ひました。

川崎会長：

資料４のＰ１８やＰ１９について、農地は緑地的な意味合いがあると思いますが、農業を経営されている方々が次の世代にどのようにつなげていくのかも課題と思います。農地が開発され全く周囲と関連のない商業施設に転用されてしまうと雰囲気が変わるということもあります。農業と産業を結びつけることも重要ですし、この辺り、緑の概念を維持するという非常に重要な視点だと思います。最後にアップデートというご指摘がありました。これはあくまでも計画であって、計画案を実現させていくときは、計画が持っている柔軟性が重要だと思いますので、この点も反映させて頂ければと思います。

それでは最後に、本日の議論の論点整理をさせていただきます。戦略案につきまして、市民意見が出されまして、それを踏まえた戦略案に寄せるため、もう少し文言を加えて欲しいという御指摘を頂きましたが、基本的には、今の戦略案というものを基本ベースとして、概ね妥当であるという御意見を頂きました。本日の御意見を踏まえて、最終的な戦略案を修正して頂ければと思います。本日も、教育や産業など具体的な御意見も頂きましたので、参考にして頂ければと思います。

この戦略では、山科が活力を持つ魅力あふれるまちであり続けるための方向性を示し、象徴的なエリアとして５つのエリアを設定しています。このエリアが全域に広がっていくようなイメージを考えていますし、人口が単に減っていくというのではなく各エリアがリンクしながらカバーしていくような形と思います。戦略を進めていく視点としては、５つのエリアの活性化で山科の課題が全て解決できるという訳ではないですが、５つのエリアの活性化をベースにして、山科全体に向けての活性化につながるということを意識して京都市として取り組んで欲しいと思います。この５年、１０年どこまでが最初のステップを踏み込めるかという実現への期間とプロセスも大事かと思うので、それに応じて次の中長期の都市計画の方針も見えてくると思います。

(3) 今後のスケジュール

事務局：

(資料７の説明)

本日皆様から頂いた御意見と開催予定の説明会で頂きました御意見を踏まえまして、２月末頃にまちづくり戦略を完成させていきたいと思っております。

6. 委員あいさつ

住友委員：

第１回から第３回まで、自分が気がついたことは、お話をさせて頂きました。ただ、幅が広すぎて集約には大変かと思いますが、明日の山科に向けて、地元の要望も聞きつつ発展的に取り組んで頂けたらありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

川中委員：

私自身も参加させて頂いて、分野的に自分の分からない所は勉強させて頂けたと思います。今後この経験を何らかの形で反映できたらと思っております。ありがとうございました。

内海委員：

東京オリンピックが２０２０年開催、万博が２０２５年開催というように、期日が決まっているテーマではなかったのですが、それでも皆さんパブリックコメントで御意見を頂いて、本当にすごいなと思っております。

農業に関して、私の家は農家ですので、1つだけ言わせてもらおうと、農地が減っていくのは、相続の問題があります。生産緑地法も変わり、農家同士の転売や農地の貸し借りなど幾分かは緩やかになりましたが、その点がネックになっていることも理解して頂きたいと思います。また、消費者は有機栽培や無農薬野菜が欲しいと言いますが、アブラムシなどの害虫が付いたら最初に抑えないと全滅してしまいます。また、除草剤をあまりやらないようにしようと思って刈り払い機でエンジンをかけて作業していた所、やかましいと苦情が来たり、農地や緑を守るよう言いながらも、そういう声も入ってきますし、守っていくことも大変なことです。御報告しておきます。

高野委員：

3回出席させて頂きまして山科の様々な課題を知ることができました。ありがとうございました。これから山科の発展を望んでおりますが、これだけたくさんの住民の方々の意見がございましたので、それを汲みながら進んでいって頂ければと思います。どうもありがとうございました。

高畑委員：

私もこのようなまちづくりに関する懇談会に参加させて頂いたことに対しては、非常に光栄に思っております。市民の方もすごく関心を持っておられて、たくさん意見を頂いているので、より良い山科のまちづくりにつながることを、また何十年先も見たいと思いますのでよろしくお願いいたします。

初田委員：

3回でしたけれども、私自身も皆様方の御意見を聞かせて頂きまして、本当に勉強させて頂きました。私も、教育だけしか語っていないので本当に申し訳ないなと思っております。ただ心配なことは、世界情勢を見ても非常に複雑な中に日本という国があり、そして激動の社会、ますます変化の度合いが早まっています。そのような中であって、このまちづくりプランが10年後に、社会情勢と合わせた時に、どのような位置にあるのかということも考えながら、進めていくのかなと思います。そういった意味で京都市の皆様にはお世話になりますけれども、ぜひともこれからの時代にあったまちづくりになるように、ひとつお力添えを頂いて、ここに書かれたプランが展開されていくことに期待を申し上げます。ありがとうございました。

日比野委員：

どうもありがとうございました。参加させて頂いて、山科の素敵な所も教えて頂いたと思います。そういった意味では、資料6のP19にあります、プランに向けて動き出すことを願っております。たくさんパブコメの意見を拝見しておりまして、難しいなと思うのは、ネガティブな御意見も参考にしなくてはならないと思いますが、御理解を頂くことの難しさを改めて感じました。今後、説明会でも御理解いただけますようよろしくお願いします。とても楽しいプランができて、本当に楽しい懇談会を経験させてもらい、どうもありがとうございました。

川崎会長：

大変ありがとうございました。皆さんの御意見を聞いていますと終了時間が来てもあと、1時間でも2時間でも議論ができそうな活発な会議であると、毎回思っておりました。多様な視点からの意見が集約された戦略(案)をご提案いただきましたが、実現させていくには今後が一層大変であると思います。市の方も、関連部局も含めて市役所の中での体制を横断的に考えながらプロジェクトを進めて頂きたいと願っております。

第1回懇談会で、市長からは刑務所敷地を使って第2の京都リサーチパークの展開も考えられると、士気を高められるように言って頂きましたが、結局、刑務所という問題は1つのきっかけにすぎません。山

科が抱えている課題を、全体としてまちづくりの活性化につなげていくのかという議論を皆様方がされたと思っておりますので、是非とも事務局の方で受け止めて、実現に向けて頑張ってくださいと思います。

7. 山科区長あいさつ

堀池区長：

川崎先生をはじめ委員の皆様、3回にわたりまして、限られた時間ではありましたが、大変濃密な御議論をいただきありがとうございました。私も4年間山科区で仕事をさせてもらっていますが、気が付かなかったこととか、新しい発想とか、深い御議論をいただきまして、感謝しております。また、500人近い方からパブリックコメントが寄せられ、これも本当に貴重な御意見だと思います。刑務所でいいますと、7割の方が賛同、1割の方が少し否定的、残りはその他ということになりますが、そういう否定的な御意見も含めて、貴重な財産だと思っておりますので、しっかり受け止めて今後のまちづくりに活かしていきたいと思っております。

それから、日比野委員がおっしゃった、伝えることの難しさ・大切さ、御理解いただくことの大切さというのも痛感しております。例えば、パブコメの中に、民間の儲け主義反対という御意見がありました。これは私の推察ですが、地元でも大手スーパーが来るのではないのかという噂話を耳にすることがあり、そのようなことのために今回の取組をしている訳ではないのに、という思いはありました。

もう1つは、5つのエリア以外は置いてきぼりですかという御意見も耳にいたします。これも全くそうということではなく、5つ以外のエリアも、当然しっかりまちづくりに取り組んでいく必要があります。そういうことは、2年後に、今後10年間の山科区の基本計画をつくる予定がありますので、その中で、きちんと盛り込んでいきたいと思っております。また、川崎先生がおっしゃった、計画は遂行する際の柔軟性が大事だということも、基本計画の中でしっかり担保していきたいと思っております。

ところで、皆さんバルト三国を御存知でしょうか。そこにエストニアという国があります。人口130万人ぐらいの京都市より小さな国です。実は、この国は世界一の電子国家といわれています。住民の方が役所にくる用事は3つしかなく、離婚と結婚の手続きと不動産の売買で、それ以外は全て、オンラインでできます。15歳以上の国民は、ほぼ全てマイナンバーカードを持っています。したがって、わざわざ役所に来て手続きをする必要が全くないそうです。その結果どうなったかという、役所の窓口の職員が10分の1に減ったといわれています。

日本のこれからの人口減少社会を考えると、そういう道しかないのではないかと個人的には強く感じております。ただし、職員を10分の1に減らすことによって生じたマンパワーを活かし、ぜひ地域に出て行って、脆弱化する地域コミュニティの課題を住民の方と一緒に取り組んでいく、そういう役割を役所としても果たしていく必要があるだろうと考えています。エストニアには産業が何もありません。観光とIT産業ぐらいしかありませんが、国債発行ゼロの無借金経営の国です。治安もよく物価も安いので一度は行ってみたいと思っております。生活保護の手続きなどオンラインでどうしているのか聞いてみたいと思っております。

もう1つは渋滞の話がよく話題になりますが、時間軸で考えると50年後には渋滞はなくなっていると思っています。それは車も人口も減るのが理由ですが、それだけでなく、完全自動運転の車になれば、渋滞は非常に起こりにくくなります。自動運転には5段階ありまして、レベル5が完全自動運転で、どのような道路でも目的地まで人を運んでくれるのがレベル5です。今は、レベル3の車が作られており、ドイツのメーカーがレベル3の車を販売しようとしていました。レベル3とは、特定の道路では自動運転になりま

すが、緊急時は人間が運転する必要がある車のことです。しかし、結果としてはまだ売られていません。その理由としては、世界中の国で法律が整備されていないからです。自動運転の車で事故が起こった時、誰の責任かということが問われます。ドライバーの責任なのか、メーカーの責任なのか色々と議論があり、結果的には市販されていませんが、車としてはできあがっています。それがレベル5になれば、人間の運転と違い渋滞が起こらなくなるので、50年後には渋滞の心配がないのですが、現時点では、渋滞の影響を受けている区民の方がおられるので、現下の課題として渋滞対策は重要です。

結局のところ、時間軸が大切だということです。時間軸の異なる話を議論していても、全く噛み合わないで、今度基本計画をつくるときは時間軸も考え、短期・中期・長期に分けて議論する必要があると思います。そして、短期の話も長期を見据えて議論をしていく必要があると思います。今回の戦略については山科区の基本計画にも盛り込ませていただき、貴重な財産として活かしていきたいと思っております。

結びに、委員の皆様にごひお願いしたいことは、これで終わりということではなく、今後も山科区の応援団として、御支援、御協力いただければ大変うれしく思います。本当にここまで3回ありがとうございました。

8. 閉会

事務局：

これをもちまして第3回懇談会を閉会させていただきます。

長い間、本当に皆様ありがとうございました。

以上